

## 「時代の要請にあった自転車の新しい設計」 技術講習会を開催

技術研究所主催による技術講習会を、3月6日に大阪で、同22日に東京で開催した。当初、大阪のみの開催予定であったが、受講の申込みが多く東京でも開催することとなった。会場の様子を写真1、2に示す。

内容は、昨年7月に技術研修会を行ったところ好評であった電動アシスト自転車と、これから自転車業界が取り組まなくてはならない製品アセスメントについてである。

講演内容は、ヤマハ発動機（株）PAS事業部の勝岡達三氏が、「電動アシスト自転車の開発思想」として、電動アシスト自転車の開発の背景、経緯と補助動力発生システムの技術概要の説明をされた。そして、機能、コスト、品質を満たすための設計の概念と、PAS成功の要因について話された。また、同じアシスト機構を用いた電動車いすの紹介があった。

次に、当職員が「電動アシスト自転車の特性試験」として、電動アシスト自転車と一般自転車のペダル踏力の比較試験の結果を報告した。

内容については、技研ニュースNo.149 に記している。



写真1

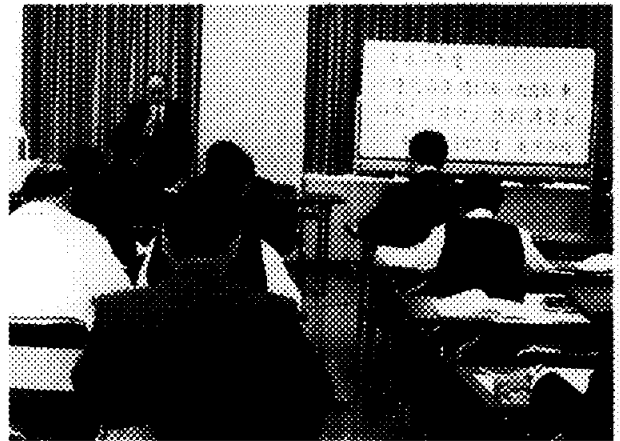


写真2

最後に、資源リサイクルシステムセンターの佐々木雅一氏が、「自転車設計のための製品アセスメント」について講演された。製品アセスメントとは、人間と環境に優しい製品を造るための評価活動である。この評価活動は、5つの概念に分類され、この中で、ライフサイクルアセスメントが注目されていると話された。そして、ドイツの自動車メーカーやアメリカの自転車メーカーなどの取り組みを紹介された。

両会場合わせて、110名の受講者があり、特に電動アシスト自転車に対して多数の質疑応答がされた。

また、アンケート調査によれば、製品アセスメントについてある程度知識はあったが、聴講後半数以上の方が関心を持たれて、社内で考えたいと答えられた。今回のテーマに対する関心が伺え、今後も、多くの方に参加していただけるような講習会を開催したいと考えている。